

俳句 (はつはな俳句会)

休日を田の神となり春祭り
あるがまま生きよと空の雲雀かな
新学期多忙に年も忘れたる
ワイン酌む友と二人の春の夜
え京の町スマホ片手に初詣
春隣いろえんぴつで記すメモ
ただ歩く知覧の町の冴返る
梅ま白今日も施設に会えぬ母
初花の待つてくれたる帰国かな

横山 良子
春日 ふく
川畑 充子
城之園よし
熊谷 玉乃
吉村 公香
本村多可子
川畑 美行
本村 湧水

俳句 (志布志左右句会)

ふところ手そのままに見る春の雪
鼻に傷成就なりしか猫の恋
仕事にも人にも馴れて春大根
すみれ草すべて忘れし老母の笑み
澄みわたる空へ老樹の花ふぶき
草の花朝露帯びてしどけなき
独り身の足が重たや日暮道
真夜中の友は晩酌スカイプで
病む母は院内感染遠ざかる
ふるさとのほつこり日溜り母がいる

永山 又生
坪田 秀邑
吉田 十二
暉峻 康瑞
谷口さえ子
肥後 洋子
岩根 長初
吉村 公平
鈴木 泉
藤後むつ子

短歌 (有明短歌会)

もろもろの花咲く見ればまどかにも心足らへる老いの日々なる
日留りに一輪咲くや芝桜春の足音間近に聞こゆ
金盞花このうらら日に誘はれて玄関の一条満開となる
一しきり囀る小鳥の群れのありしばし歩を止め君の名はとふ
孫の記事紙面記載のメールあり見ずらき文字に気をもむ一夜
一人では叶わぬ肩のはり薬手を添えくれし人は遙けし
薩摩路は開聞岳の裾野辺に広がる菜畑車窓を駆ける
裏腹に懐痛き春なれど晴れて大学合格の孫
この辺と感と手さぐりで貼り薬はりつつ浮かぶ亡き妻の笑み
風邪患い床にふす孫看病に感謝の言葉に疲れ忘れる
水仙を雪中花とは知らざりき如月の野に凜と咲きおり
学友の来て二十年ぶりに手をとりにて積もる話に時を忘れる
父逝きて六十一年過ぎし春臉に浮かぶ背広の姿

畑山みつぎ
福元 忍
徳田 将人
矢野 むつ
野口 嵐
澤津加頼子
萩 幸子
木下マキ子
太原 繁
水上カズエ
池道 茂
石峰カズ子
宮脇 ナナ

薩摩郷句 (志布志薩摩郷句会)

ど忘れを笑るたが今じや笑われつ
目立と言ちや支度き追わるい 同窓会
隣席や美人 居眠い真似で 寄いかかつ
悪り足で ゆつくい行たや 相手あ留守
娘ん脇で 莫座どん敷けば 逃げられつ
安売いで 詰め放題言えば 先く急つ
早よ寝れば 小便に余計 苛なされつ
気が急つて 暢気な客が 座い込つ

満留 ぐみ
木藤 富美
福山 吉連
野村 三味
伊地知 孝
竹之内零余子
新地 十意
樋渡草団子

～『志』・季・折・々～

市内の美しい風景や、歴史・文化を感じさせてくれるもの等を写真でご紹介します。読者の皆様からの写真のご提供も、お待ちしております。

【今月の1枚:新茶の季節になりました(原田校区)】



Japanese Poem of 31syllables
*Haiku Poem*Comic Haiku*